

ご あ い さ つ

高等教育教授システム開発センター長

福 井 有 公

平成8年4月から岡田渥美先生の後をうけセンター長に就任いたしました福井です。よろしくお願ひ申し上げます。

本センターは、この6月をもってようやく創設から満2周年を迎えました。現在でも京都大学の中で最も新しい部局の一つです。大学における教育活動そのものを研究の対象とし、その教授法の開発に焦点を当てたわが国でもユニークな施設です。このたびその活動の一環として、「京都大学高等教育研究 第2号」を発刊することとなりました。ご高覧いただければ幸いです。

大学における教育が、今大きな転機にさしかかっています。この動きの直接のきっかけとなったのは、平成3年7月に実施された大学設置基準の大幅な改正でした。この中においては、大学教育4年（医学部にあっては6年）の一貫性、あるいは教育課程編成の自由化がうたわれました。すなわち従来ややもすれば固定的かつ横並び的にとらえられていた大学教育に、弾力性を導入し特色を工夫することを促したものでした。この改正を契機に、全国の大学で主として教養課程の見直しを中心に教育の改革が進められ、この流れは今もなお続いています。

教育体系を見直す動きは単に大学の世界だけではないようです。例えば、中央教育審議会が最近、高等学校以下の教育についてゆとりのある教育活動を提言し、さらに教育における家庭や地域社会の重要性を指摘しました。また平成6年からは高校教育において新たに「総合学科」がスタートしました。ここにも従来の学校教育を見直そうとする新しい機運が伺えます。いわゆる高等教育が、義務教育および高校教育の延長上にあることを思えば、これら一連の現象はまことに心強いものがあり、同時に教育体制の立て直しが今国民から大きく期待されていることを強く感じます。

本センターは「教授システム開発センター」の名が示すとおり、単に教育理論の構築だけにとどまらず、実践の領域も視野に入れています。そのため本年度からは、センター担当による実験講義の試みも始めました。限られたスタッフではありますが、高等教育の現場から離れることなく研究活動を進めたいと考えます。

学生諸君の人間形成に役立ち、社会の期待にも応えうる教育を目指し、センターとしての新しい分野の開拓を心に今後も努力を続けて参ります。一層のご支援とご指導をお願いいたします。